

令和5年6月定例会 文教厚生委員会（事前）

令和5年6月13日（火）

〔委員会の概要 教育委員会関係〕

元木委員長

休憩前に引き続き委員会を開会いたします。（13時06分）

これより教育委員会関係の調査を行います。

この際、教育委員会関係の所管事務及び6月定例会提出予定議案等について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【所管事務説明】（説明資料）

【提出予定議案等】（説明資料）

- 議案第1号 令和5年度徳島県一般会計補正予算（第1号）
- 報告第1号 令和4年度徳島県継続費繰越計算書について
- 報告第2号 令和4年度徳島県繰越明許費繰越計算書について

【報告事項】

- 第2 三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事の請負契約について

榊教育長

去る5月24日の所管委員会におきまして、担当者名の記載がない組織図等をお示しさせていただきましたが、今回、6月1日付けの人事異動後の職員名を記載した組織図及び事務分掌を取りまとめましたので、御説明申し上げます。

それでは、文教厚生委員会説明資料の3ページを御覧ください。

はじめに、教育委員会の組織についてでございますが、教育長ほか5名の教育委員で組織されております。

続きまして、4ページでございます。

事務局の組織図につきましては、5月説明時から変更はございません。

5ページでございます。

県立学校につきましては、5ページから8ページに記載のとおりでございます。

続きまして、10ページでございます。

10ページから43ページにつきましては、各課別の組織図及び事務分掌でございます。各課とも5月説明時から変更はございません。

続きまして、6月定例会県議会に提出を予定いたしております教育委員会関係の議案等につきまして御説明申し上げます。

今回、御審議いただきます案件は、令和5年度一般会計補正予算案及び債務負担行為、また、その他の議案等といたしまして令和4年度継続費繰越計算書及び令和4年度繰越明許費繰越計算書でございます。

それでは、説明資料の44ページを御覧ください。

歳入歳出予算の総括表でございます。

教育委員会全体の一般会計補正予算額といたしまして、表の最下段の計の欄に記載のとおり14億2,992万5,000円の増額補正をお願いいたしております。

この結果、令和5年度一般会計の予算総額は800億507万8,000円となっております。

なお、各課別の補正額及び財源内訳につきましては、表に記載のとおりでございます。

続きまして、46ページを御覧ください。

課別の主要事項でございますが、主なものにつきまして、順次、御説明を申し上げます。

まず、施設整備課でございます。

高等学校費学校建設費の①高校施設整備事業費といたしまして、アの県立学校施設長寿命化推進事業では、県立学校施設長寿命化計画に基づく県立学校施設の整備に要する経費として11億4,132万4,000円を計上いたしており、その他経費を合わせた施設整備課の予算総額は13億8,032万4,000円となっております。

続きまして、47ページでございます。

学校教育課でございます。

計画調査費の①地方創生の深化のための支援費といたしまして、アの教育DXハイスクール事業では、ICTならではの新たな学びを通し、生徒一人一人に合った個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を図るため、実証校を指定し、一人1台端末を活用した実践的な取組に要する経費といたしまして578万円を計上いたしており、その他経費を合わせた学校教育課の予算総額は1,841万5,000円となっております。

続きまして、48ページでございます。

特別支援教育課でございます。

教育指導費の①特別支援教育振興費といたしまして、イの「重症心身障がい児」ハイブリッド型教育支援体制強化事業では、アフターコロナへの移行に伴い、重症心身障がい児に対するハイブリッド型教育支援体制の強化を図るため、オンライン学習やベッドサイド教育に必要な環境整備に要する経費として347万円を計上いたしております。

また、特別支援学校費の①学校管理運営費といたしまして、アの県立特別支援学校給食費等支援事業では、各学校で保護者の皆様に御負担いただいております給食及び寄宿舎食の食材費高騰分につきまして補助を行う経費として794万2,000円を計上いたしており、その他経費を合わせた特別支援教育課の予算総額は1,596万6,000円となっております。

49ページを御覧ください。

体育健康安全課でございます。

保健体育総務費の①給食管理指導費といたしまして、アの県立中学校等給食費支援事業では、48ページで御説明いたしました県立特別支援学校と同様に、県立中学校及び中等教育学校前期課程においても給食の食材費高騰分につきまして補助を行う経費として722万円を計上いたしております。

また、体育振興費の①競技スポーツ重点強化対策費といたしまして、アのとくしま競技力向上指定校事業では、高等学校における運動部活動の全国大会で継続的に上位入賞ができるよう、競技力向上指定校に対し、運動部の強化と指導者の育成に要する経費とし

て540万円を計上いたしており、その他経費を合わせた体育健康安全課の予算総額は1,522万円となっております。

続きまして、50ページでございます。

（2）債務負担行為でございます。

施設整備課の令和5年度当初予算に関連し、令和5年2月定例会において御承認を頂きました高校施設整備事業工事請負等契約についての債務負担行為につきまして、46ページで御説明いたしました補正予算案に関連し、限度額を15億9,487万3,000円に補正するものでございます。

続きまして、51ページでございます。

2、その他の議案等といたしまして、（1）令和4年度継続費繰越計算書でございます。

令和4年度から6年度まで継続費を設定しております特別支援学校施設整備事業につきまして、表の右から5列目の翌年度遞次繰越額欄に記載のとおり100万円に確定したものでございます。

52ページを御覧ください。

（2）令和4年度繰越明許費繰越計算書でございます。

52ページから53ページに各課別の状況を記載しております。

53ページを御覧ください。

表の最下段、左から3列目の翌年度繰越額欄に記載のとおり、合計で30億6,173万9,000円に確定したものでございます。

以上が、今議会に提出を予定いたしております案件でございます。

続きまして、教育委員会に関する事項について1点、御報告申し上げます。

第2 三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）新築工事のうち建築工事の請負契約についてでございます。

資料1を御覧ください。

一般競争入札により資料記載の共同企業体が落札いたしましたので、御報告させていただきます。

本契約につきましては、御承認をお願いする議案を県土整備部から提出する予定でございます。

報告は以上でございます。

御審議のほど、どうかよろしくお願いいたします。

元木委員長

以上で説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

梶原委員

6月補正予算の主な事業について、大きく2点お伺いいたします。

まず、1点目が新時代「特別支援学校SDGs」創出事業についてでありますけれど

も、児童生徒が育てた県産野菜を活用して新商品のセールスと地域のにぎわいを創出して、また、生産した商品を道の駅とか地域のマルシェで販売するという取組をされると書いてあるんですが、今後の進め方について教えていただきたいと思います。

田中特別支援教育課長

ただいま梶原委員から、SDGs創出事業につきまして、事業の概要、今後の進め方についての御質問を頂きました。

まず、特別支援学校におけるSDGsの取組でございますが、これにつきましては特別支援学校内の農園や、福祉施設との農福連携で栽培した野菜を活用した調理レシピを児童生徒が考案し、その魅力をアピールするため、県のでり・ばりキッチン阿波ふうど号とコラボしまして、地域のマルシェ、道の駅などで地域の方に試食品を配布するなど、地域のにぎわいを創出してまいりたいと考えております。

この事業につきましては、児童生徒が地域の中で非常に積極的に主体的に取り組んでいる事業でありまして、今後もこういった障がいのある子供たちが地域を学習の場とする取組を拡大しまして、あわせまして、農福連携等を通じた就業体験の拡大を図るなど、障がいのある子供たち一人一人が主役となって地域で貢献できるように、事業計画を進めてまいりたいと考えております。

梶原委員

分かりました。日頃土に親しむことがなかなか少ない子供さんが、こうして土に親しんで、また地域の方との交流でありますとか、マルシェとか道の駅で一般の方との交流もあるんだと思うんですけども、非常にいい取組であるかと思っております。

種をまいて、収穫して販売に至るプロセスが子供さんの教育には非常に有効なんじゃないかなと思っております。

先ほど課長さんからもお話がありましたけれども、今、農福連携の取組が積極的にされてますので、そこにもしっかりとつながっていくような取組になるかと思っております。また今後も積極的に行っていただきたいと思っております。

それと、あともう1点が、この下に障がいの種別に関わらず、誰もが参加できるハイブリッド作品展を開催するというふうにありますけれども、この具体的な内容について教えていただきたいと思っております。

田中特別支援教育課長

ただいま梶原委員から、児童生徒の作品展について質問を頂きました。

特別支援学校の文化芸術活動におきましては、児童生徒の作品制作への意欲を高めるとともに、障がい者アートへの理解、啓発のために特別支援学校の児童生徒作品展をリアル会場とウェブ会場のハイブリッド作品展として、今年度開催いたします。

令和2年度と3年度につきましては、コロナ下でウェブ開催のみでございましたが、このコロナ下で培ったウェブ開催のスキルを活用しまして、本年度につきましても、ハイブリッド開催することによりまして、アフターコロナにおける障がいのある子供たちの文化芸術活動の振興を図ってまいります。

また、ウェブ会場の作品展でございますが、こちらにつきましては四国内の特別支援学校にも参加を呼び掛け、この作品展の拡大、拡充に取り組んでまいりたいと考えております。

梶原委員

分かりました。これは県内12校と四国内ということで、四国内のほか3県は何校ぐらいあるんですか。

田中特別支援教育課長

ただいま梶原委員から、四国内は何件ぐらいの参加校数があるのかという御質問を頂きました。

このウェブ開催を始めた作品展ですが、四国内の高知県、香川県、愛媛県を合わせて、令和2年度につきましては8校、令和3年度について7校が参加していただいております。

梶原委員

近年、アール・ブリュットが非常に脚光を浴びていますので、また、子供さんが御自分の才能に気付くような場になるかも分からないので、しっかりと充実した作品展にしていきたいと思っております。

2点目が、地方創生の深化のための支援費ということで、新しい事業で教育DXハイスクール事業に578万円が計上されておりますけれども、この事業を進めるに当たって実証校を指定していくというふうにあります。実証校として何校指定していつぐらいに決定するのでしょうか。

酒井学校教育課長

ただいま梶原委員から、教育DXハイスクール事業の指定校の校数、それからスケジュールについてお尋ねがありました。

本事業につきましては、2校程度の指定を行うこととしておまして、学校からの提案や審査を経て夏頃に指定校を決定し、秋頃から指定校における実証研究を始めたいと考えております。

梶原委員

分かりました。AIのデジタル教材で個別最適な学びを実践していくと、例として生成AIの活用、検証を通じた活用モデルの創出とありますけれども、この具体的な内容について教えていただきたいと思います。

酒井学校教育課長

ただいま梶原委員から、生成AIの検証を通じた活用モデルの構築についての御質問がありました。

生成AIにつきましては、今後、文部科学省から生成AIの学校現場での利用に関する

ガイドラインが策定、公表される予定となっております。

こちらを踏まえまして、県の生成A I活用の方向性を考えてまいりたいと考えております。それと並行して、プラスの面の活用としまして、特に、普通科の高校を想定し、本事業を活用しまして、子供たちの学習効果の向上や教員の教育支援の強化など、教育の質の向上に資するような教育現場での教育資源としての積極的活用を検討してまいりたいと考えております。

具体的には、学校現場からの提案を見まして採択を考えたいと思っておりますけれども、こちらで、まずは生成A Iの活用についてのモデルを構築していきたいと考えております。

梶原委員

これから文科省のガイドラインが出てくるということでしたけれども、そのガイドラインがいつ出て、県の方針というのがいつぐらいに決まっていくんでしょうか。

酒井学校教育課長

ただいま、生成A Iのガイドラインについてのお尋ねがありました。

文部科学省からは夏頃出る予定と聞いておりますが、それを受けまして、速やかに県のほうでも対応を考えたいと考えております。

また、先ほどプラスの面の話をいたしましたけれども、マイナスの面の話として情報モラル、セキュリティという側面もあると思います。こちらについても、文科省のガイドラインも踏まえながら、整理していきたいと考えております。

梶原委員

生成A Iの活用については非常に便利という声もある一方、現場の先生からチャットGPTに大きな可能性を感じる一方で、無防備に導入すると劇薬になってショック反応を引き起こしかねないと心配される声もあるようです。ガイドラインを待って、その後、県教委の方針が示されると思うんですけれども、なかなか難しいところだと思うんですが、くれぐれも子供さんに悪影響を及ぼすような活用にならないように。

私もパソコンをいじってたら、チャットGPTのトライアルみたいなのが出まして、入れてみたらすばらしい答えが出てきて、これはもう大変なことになった、学校の教育現場でこれがまかり通るようになったら、先生方もやりづらいなというふうに感じましたけれども、活用方法についてはこれから慎重に探っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

達田委員

説明資料の48、49ページに入っております県立学校の学校給食への支援についてお尋ねをいたします。

支援学校については794万2,000円、そして県立中学校については722万円という予算が付けられておりますけれども、一つ目、食材費の高騰分というのは今、平均幾らぐらいなんでしょうか。

それから、今高騰分補助というだけではなくて、給食費そのものを無償化することが多

く望まれておりますけれども、県としてはそういうつもりがないのかどうか。

そして3点目、県下で学校給食に対して臨時交付金などを利用して、無償化あるいは軽減策に取り組まれておりますけれども、期間限定ではなくて、交付金が終わっても独自に無料化していこうという取組もあるとお聞きしております。県下の状況が今、どうなっているのかお尋ねいたします。

長谷体育健康安全課防災・健康食育推進幹

ただいま達田委員から、補正予算として提案させていただいております県立学校における給食費等の支援事業、その他給食関係の御質問を頂戴いたしました。

まず、物価高騰分についてでございますが、今回の事業案といたしまして、補助金額を1食当たり50円とさせていただいております。この上限50円につきましては、昨年4月と本年3月の食材費モデル献立を作成しまして比較をしたところ、平均31.4円ほど値上がりをしております。また、牛乳単価につきましても、昨年と比較して約5.7円値上がりしている状況でございます。今後、様々な食品の価格が更に上昇するという事も想定されておりますので、そのあたりを踏まえて50円とさせていただいたところでございます。

続いて、県のほうで無償化はというようなことでございますが、このあたりにつきましては多額の経費が必要となるということも踏まえまして、他県の状況等を踏まえて今後注視してまいりたいと考えておるところでございます。

それから、現在、県下の状況はどうかということでお尋ねいただいておりますが、昨年もお答えしております。既に本県の自治体で給食費の完全無償化を行っているところにつきましては2自治体、1市1町でございます。そこにつきましては本年度も継続されるというふうに聞いておりますが、そのほかのところにつきましては、全額無償ではなく一部の補助といった形で自主財源を使われたり、また国の臨時交付金を活用して取り組まれておると聞いているところでございます。

なお、昨年度、国の臨時交付金を使って何らかの補助を行った市町村は19市町村であったかと思えます。本年度については、各市町村で現在開かれております議会において、補正予算等で提案をされていると聞いているところでございます。

達田委員

今、全国的あるいは徳島県内でも教育費の軽減ということを望まれている声が高まっておりますので、給食費の無償化に取り組んでいる自治体、積極的に取り組もうとしている自治体も出てきていると思えます。臨交金が出ている間はこれができるんですけども、なかなか財源が大変というところもあるかと思うんですね。しかし、何をおいてもこういうところにお金を掛けていきましょうというところもやっぱり出ていると思えます。

そういう中で、県立学校が給食費の無償化に取り組んだということになりますと、自治体を大きく励ますということにもなると思えますので、是非ここで取り組んでいただいて、軽減策あるいは無償化を大きく進めていただきたいということをお願いして、終わります。

元木委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、教育委員会関係の調査を終わります。

次に、当委員会の県外視察についてでございますが、ただいまの予定といたしましては、7月19日から7月21日までの3日間の予定で、北陸、関東方面での実施を検討しておりますが、よろしゅうございますか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、さよう決定いたします。

なお、当委員会として調査すべきテーマや視察箇所等がございましたら、早めに正副委員長まで御提案いただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

これをもって、文教厚生委員会を閉会いたします。（13時30分）